

覚えておきたいクラウド&データのキホン(第6回)

データプラットフォームとは何か？どんなことができるのか？

2022.03.31



「データプラットフォーム」という言葉をご存じでしょうか。データプラットフォームとは、企業が所有している顧客情報などのデータを蓄積・分析するための基盤のことです。

データプラットフォームを活用することで、ビジネスはどう変わるのででしょうか？ここでは、データプラットフォームの仕組みや特徴について紹介します。

データプラットフォームとは何か？

データプラットフォームとは、企業が所有するデータを蓄積・分析する基盤のことです。近年、スマートフォンの浸透やクラウドの普及、IoTの活用といった影響により、膨大な種類・容量のデータ(ビッグデータ)を取得できるようになりました。データプラットフォームを活用することによって、一般的なデータ管理ツールでは処理しきれないデータを扱いやすくなり、より複雑なデータの蓄積や分析を行えるようになります。

データプラットフォームの活用方法

ビジネスに資するデータ活用のためには、大きく以下4つの流れでデータを取り扱っていきます。データプラットフォームでは、この4つ流れを一気通貫することができます。

分析に必要なデータを集める

データ分析を行うためには、対象となるデータを集めることが必要です。しかし、企業が扱う多くのデータは、収集経路や取り扱うツールがさまざまです。そのため、サイトへのアクセス数はアクセス解析ツールからログを取得、購買データは販売管理システムから取得するなど、データ収集を仕組み化する必要があります。

データをためる

収集したデータは、CSVデータのような規則性をもつデータ(構造化データ)の他にも、規則性をもたないテキストや音声、動画、各種ログなどの形式(非構造化データ)も想定されます。これらを、データフォーマットを変えずに格納できるデータレイク(データ貯蔵庫)にためていきます。

集めたデータを加工する

データレイクに集めたデータは、ETL(Extract : 抽出、Transform : 変換・加工、Load : 書き出し)処理で構造化データに変換・加工して、データウェアハウス(データ保管庫)に渡します。データウェアハウスに保管されたデータから、分析を行うために抽出されたデータはデータマート(データ市場)と呼ばれます。

データを分析する

ここまでの準備を経て、データを分析していきます。分析に当たっては、データ単体では分かりづらいため、BIツールなどを

用いてグラフやチャート化するなど、誰でも理解できるように表示を組み替えます。

データプラットフォームのメリット… [続きを読む](#)